

石 水 館

SEKISUI-KAN



静岡市立芹沢銑介美術館

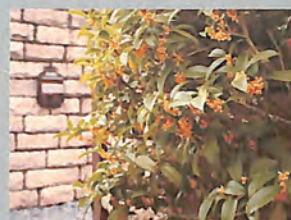
SHIZUOKA CITY
SERIZAWA KEISUKE
ART MUSEUM



展示風景 (G展示室)



展示風景 (C展示室)



きんもくせい (前庭)



寒椿 (噴水前)



しだれ梅 (坪庭)

観 覧 料

一般420円、高・大生250円、小・中生100円、未就学児無料
(団体割引30名以上50円引き、小・中生は20円引き)
※市内在住の小・中学生及び、70歳以上の方、
身体障がい者手帳等の交付を受けている方と
その介助者1名は無料



開 館 時 間 等

開館時間 = 9:00 ~ 16:30
休 館 日 = 月曜日、祝日の翌日、
年末年始、展示替期
間中

交 通

バ ス = 静岡駅南口②バス乗
り場から「登呂遺跡」
行き乗車、約12分終
点下車
タクシー = 静岡駅南口から登呂
公園へ…約10分
東名高速 = 静岡インターより約
10分
駐 車 場 = 登呂公園南側に駐車
場があります

静岡市立芹沢銑介美術館

〒422-8033 静岡市駿河区登呂5-10-5 TEL054-282-5522
<http://www.seribi.jp>

《衣紙の写真》
ライトアップ
された池
撮影：三輪晃久 (1981年)

弥生時代の遺跡として名高い登呂遺跡公園の一隅に位置する静岡市立芹沢銑介美術館は、染色家・芹沢銑介 (1895~1984) より、郷里の静岡市に作品とコレクションが寄贈されたのを機に建設されました。

芹沢銑介は、自らの作品とコレクションを収蔵する施設をつくるにあたり、水原徳言氏の紹介をえて、白井晟一に設計を依頼しました。芹沢は設計のすべてを白井に委ね、白井はその信頼に応えるべく真摯な態度で設計に臨みました。

白井はこの建物を、自身がもつともこのんだ京都・高山寺の石水院にちなんで「石水館」と命名、登呂遺跡の雰囲気にならに溶け込むように、石や木、水といった天然素材で構成しました。石を積み上げた量感ある外壁。ゆるやかな銅版葺きの屋根。そして銑とよばれる手斧の跡を残す白木の檣材の組天井をもつ展示室が池を巡るように配されています。芹沢芸術の鑑賞の場にふさわしいゆったりとした空間を演出しています。

平成10年には建設省の「公共建築百選」のひとつにも選ばれています。

このパンフレットは、開館直前 (1981年4月) と、近年撮影された写真で構成されています。

静岡市立芹沢銑介美術館



①ライトアップされた池



③F室より小噴水越しにD室をみる



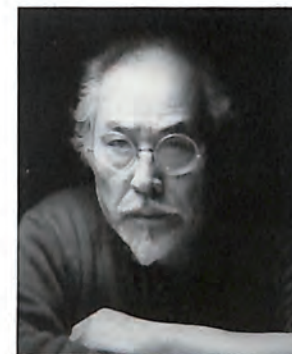
④特別室坪庭



⑤池

白井晟一 (1905-1983)

Shirai Seiichi



京都市生まれ。京都高等工芸学校に入学、そのかわら京都大学哲学科に通いマルクス主義哲学者の戸坂潤らと親交を結ぶ。

1927年ドイツに留学、ベルリン大学、ハイデルベルク大学でヤスパースらに師事し、かたわらゴシック建築を学ぶ。パリでは、アンドレ・マルロー、イリヤ・エレンブルグ、そして丁度パリ在住の作家林芙美子らと交流した。

1935年義兄の日本画家近藤浩一路の住居を手がけてから建築に専念し、「河村邸(1936年)」「歎帰荘(1937年)」「嶋中山荘(1941年)」などを設計した。

戦後、秋田の「秋ノ宮村役場(1951年)」、群馬の「松井田町役場(1956年)」など地方の風土文化に根ざした建築で注目をあびる。

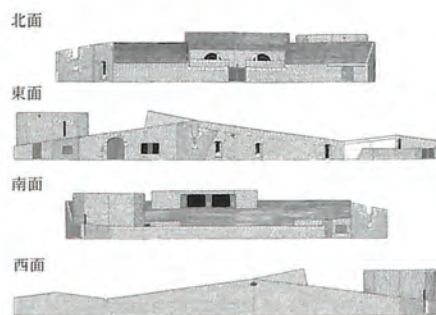
1955年「原爆堂計画」で日本の現代建築に精神性を求める作風の基礎を築いた。1958年「浅草善照寺」で高村光太郎賞を受賞。1963年から親和銀行各支店の設計を手がけ、代表作佐世保本店「懷書館(1975年)」で建築学会賞、毎日芸術賞を受賞。一方1965年には富山に「呉羽の舎」を建て、和風建築に創造性を発揮する。1974年及び1978年に作品集(中央公論社及び世界文化社)を出版、また書をよくし、三冊の書帖が出版された。装幀家でもあった。1978年からは南洋堂出版から「白井晟一研究」が出版される。1980年日本芸術院賞を受賞。同年「渋谷区立松濤美術館」、1981年静岡市立芹沢銑介美術館「石水館」を設計。

1983年11月22日京都嵯峨野にて死去。享年78歳。死後、1988年に白井晟一全集(同朋舎)が発行されている。

平面図



立面図



施設概要

建築名 静岡市立芹沢銑介美術館(石水館)
所在地 静岡市駿河区登呂五丁目10番5号
構造 鉄筋コンクリート造銅版葺平屋建
設計 白井晟一研究所
建設施工 大成建設株式会社
竣工 1981年5月
敷地面積 3,799㎡
建物床面積 1,261.58㎡
展示室 (10室) 676.62㎡
軒高 5.449m~6.849m
天井高 2.6m~6.4m

主な外部仕上

屋根 銅版一文字蒼緑青仕上
外壁 紅雲石割肌野積
建具 銅製サッシュ
塀 紅雲石割肌野積
前庭・坪庭 金木犀、しだれ梅、寒椿、ほか
※紅雲石とは、韓国産の赤御影石のこと。無名であったため、白井晟一が命名した。

施設内容

A展示室	68.00㎡	映写室	22.40㎡
B展示室	23.00㎡	収蔵庫	81.60㎡
C展示室	70.00㎡	事務室	55.27㎡
D展示室	140.00㎡	特別室	53.10㎡
E展示室	60.00㎡	化粧室	43.04㎡
F展示室	87.75㎡	機械室	43.35㎡
G展示室	66.07㎡	入口ロビー	47.00㎡
H展示室	60.00㎡	ロッカールーム	30.00㎡
I展示室	41.80㎡	インフォメ	12.00㎡
J展示室	60.00㎡	廊下	42.00㎡
研究室	70.00㎡	出口その他	85.20㎡

展示室内部仕上

天井	橋板貼 橋は木曾・飛騨産 天井張り、柚工房(早川謙之輔) D室格子・小噴水天井、G室天井 はオニキス石 デュッセル(砕石入アクリルリシン) ジュータン
壁	紅雲石本磨 インド産黒御影石本磨
床	白丁場石 中国産玄晶石
ポーター・巾木	
F、G室の黒石	
D室八角柱、化粧暖炉	
池底	石



②C室よりD室をみる



⑥美術館の外、南西の角より外壁をみる。手前の塔はG室



⑦G室よりF室をみる



⑧E室よりF室をみる(奥はG室)

⑨A室(奥はC室)

①~⑤撮影：三輪晃久(1981年)